

作成日：2022 年 4 月 12 日

一般社団法人大阪府理学療法士会生涯学習センター

著作物利用に関するお願い

- 著作物を利用する際には下記に示す「出所の明示(出典の記載)」が必須となります。自身の著作物との区別を明らかにするために、該当箇所(スライド)ごとに明示をお願いします。

- 1) 【雑誌】 著者名:表題名,雑誌名,巻(号),頁,発行年(西暦年次)
- 2) 【書籍】 著者名:書名(版),発行所,頁,発行年(西暦年次)
- 3) 【翻訳書】 原著者名:書名(版),発行年,訳者名,書名(版),発行所,頁,発行年(西暦年次)
- 4) 【電子文献】 著者名:表題名,雑誌名,巻(号),頁,発行年(西暦年次),アクセス年月日,URL

発行機関名(発行年次)：表題,アクセス年月日,URL

- 著作物について、許諾を得ずに利用できるのは、文章の「引用」の場合のみです。図表や画像を講義資料へ掲載することは「転載」になります。許諾を得ずに利用できる条件は、下記の通りです。

- 1) 既に公表されている著作物であること
- 2) 「公正な慣行」に合致すること
- 3) 報道、批評、研究などのための「正当な範囲内」であること
- 4) 引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること
- 5) カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること

<例> “○○○○○○” 『○○○○○○』 など

- 6) 引用を行う「必然性」があること
- 7) 「出所の明示」が記されていること

➤ 行政機関が一般への周知を目的とした資料の利用は、以下を満たす場合に利用できます。

- 1) 一般に周知させることを目的とした資料であること
- 2) 行政機関等の名義の下に公表した資料であること
- 3) 説明の資料として転載すること
- 4) 転載を禁止する旨の表示がないこと
- 5) 出所の明示(出典の記載)が記されていること

➤ 自身が撮影した写真を使用する場合は、人格権や財産権といった通称肖像権に抵触する可能性がありますので、対象から許諾が得られたものをご利用ください。対象者が未成年の場合や本人からの許諾が得られない場合は、家族の許諾が得られたものを使用してください。

<例> (この写真は患者本人(または家族)の承諾の上、〇〇施設の承認のもと掲載しています)

➤ 図表などを改変して転載する場合は、出版社だけでなく、著作者の了解も必要となります。改変した場合、「出所の明示」に加えて〔…より改変〕などの“ことわり”を入れることが必要となります。

<例> (「著者名, 題名, 雑誌名, 巻, 号, …」より改変)

[転載]: 著作物の図・表・写真等を改変なく、そのままの状態で講義資料に掲載すること

[引用]: 著作物にある文章等を自説の補強をするために自身の著作物の中に掲載すること

転載：論文等に掲載されているものをそのまま貼り付ける

便宜上、赤枠が
スライド全体
とする。

体幹が右へ傾斜

左臀部で支持

身体の傾きと臀部の圧の偏りは必ずしも同じではない

	X00	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08	X09	X10	X11	X12	X13	X14	X15
Y00																
Y01																
Y02																
Y03																
Y04																
Y05	38	48	54	60	64	61	55	37	27	47	50	49	45	41	35	
Y06	46	59	65	71	77	72	61	24	24	52	57	57	54	48	39	20
Y07	54	65	71	80	90	83	64	29	38	58	63	63	59	50	40	22
Y08	43	62	70	84	103	94	71	43	51	64	67	65	59	49	33	
Y09	52	63	71	92	124	113	77	44	54	69	77	71	60	43	33	
Y10	47	62	75	99	125	107	81	61	64	75	83	79	67	51	35	
Y11	41	61	70	84	95	86	77	65	65	76	80	72	61	48	31	
Y12	28	51	59	64	69	70	67	62	62	71	67	59	50	39	20	
Y13		39	46	52	58	60	54	52	51	60	53	42	38	26		
Y14			33	37	42	42	33	34	23	33	42	24	21			
Y15																

第22回日本褥瘡学会学術集会教育講演3

骨盤を水平

骨盤を水平

	X00	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08	X09	X10	X11	X12	X13	X14	X15
Y00																
Y01																
Y02	20	27	30	30								31	30	28	23	
Y03	27	32	34	36	34	20						35	39	35	34	32
Y04	33	36	38	40	42	39					34	44	40	37	36	25
Y05	24	40	42	45	48	49	47	30	22	49	51	48	46	42	40	32
Y06	31	47	52	57	61	58	53	34	39	55	60	59	57	52	47	37
Y07	37	55	63	67	74	70	61	24	37	62	69	67	67	61	53	41
Y08	42	59	68	77	85	79	68	36	51	70	79	76	73	65	56	45
Y09	32	53	69	84	97	83	73	53	63	80	89	81	74	65	48	36
Y10	41	57	73	102	124	95	79	55	67	98	114	92	77	63	52	39
Y11	34	57	82	120	136	100	84	70	79	108	129	109	88	71	57	41
Y12	34	61	77	98	101	87	81	74	81	101	117	101	83	63	50	36
Y13	24	53	67	71	74	75	72	68	76	91	90	79	68	50	41	25
Y14		39	53	58	64	66	60	59	66	77	67	57	50	39	31	
Y15			33	45	52	51	39	43	47	58	54	37	32	25		

2020/9/11 6

図にかぶせるように文字を追加した場合には、改変となります。

図表等については同一性保持が重要

出典：日高正巳：〇〇〇・・・・・・・・・・、2021

説明内容がスライドが示す結果のみの場合 ⇒ 許諾が必要

論文等に掲載されているものを貼り付けるが、追加の説明が主であり、使用している図が説明の補助的意味合いに留まる ⇒ 引用の範囲内

座圧計の活用

座圧分布の結果で、骨盤の支持部の判断だけでなく、骨盤の傾斜状態を推測することが可能

体幹が右へ傾斜

左臀部で支持

身体の傾きと臀部の圧の偏りは必ずしも同じではない

	X00	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08	X09	X10	X11	X12	X13	X14	X15
Y00																
Y01																
Y02																
Y03																
Y04																
Y05	38	48	54	60	64	61	55	37	27	47	50	49	45	41	35	
Y06	46	59	65	71	77	72	61	24	24	52	57	57	54	48	39	20
Y07	54	65	71	80	90	83	64	29	38	58	63	63	59	50	40	22
Y08	43	62	70	84	103	94	71	43	51	64	67	65	59	49	33	
Y09	52	63	71	92	124	113	77	44	54	69	77	71	60	43	33	
Y10	47	62	75	99	125	107	81	61	64	75	83	79	67	51	35	
Y11	41	61	70	84	95	86	77	65	65	76	80	72	61	48	31	
Y12	28	51	59	64	69	70	67	62	62	71	67	59	50	39	20	
Y13		39	46	52	58	60	54	52	51	60	53	42	38	26		
Y14			33	37	42	42	33	34	23	33	42	24	21			
Y15																

第22回日本褥瘡学会学術集会教育講演3

骨盤を水平

骨盤を水平

	X00	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08	X09	X10	X11	X12	X13	X14	X15
Y00																
Y01																
Y02	20	27	30	30								31	30	28	23	
Y03	27	32	34	36	34	20						35	39	35	34	32
Y04	33	36	38	40	42	39					34	44	40	37	36	25
Y05	24	40	42	45	48	49	47	30	22	49	51	48	46	42	40	32
Y06	31	47	52	57	61	58	53	34	39	55	60	59	57	52	47	37
Y07	37	55	63	67	74	70	61	24	37	62	69	67	67	61	53	41
Y08	42	59	68	77	85	79	68	36	51	70	79	76	73	65	56	45
Y09	32	53	69	84	97	83	73	53	63	80	89	81	74	65	48	36
Y10	41	57	73	102	124	95	79	55	67	98	114	92	77	63	52	39
Y11	34	57	82	120	136	100	84	70	79	108	129	109	88	71	57	41
Y12	34	61	77	98	101	87	81	74	81	101	117	101	83	63	50	36
Y13	24	53	67	71	74	75	72	68	76	91	90	79	68	50	41	25
Y14		39	53	58	64	66	60	59	66	77	67	57	50	39	31	
Y15			33	45	52	51	39	43	47	58	54	37	32	25		

2020/9/11 6

出典：日高正巳：〇〇〇・・・・・・・・・・、2021

便宜上、赤枠が
スライド全体
とする。

最新の研究の紹介として、研究Aの結果と研究Bの結果のみを紹介する
⇒ 研究内容の紹介はそれぞれの著者が行うものであり、引用ではなく転載 ⇒ 転載の許諾が必要

最新の研究による知見



研究内容を文字で
まとめて紹介する
場合には、参照扱
いになることも
(引用にもならな
い)

引用は、
同一性保持が
重要であり、
明瞭区別性
が必要

便宜上、赤枠が
スライド全体
とする。

出典：研究Aは〇〇〇：〇〇〇・・・・・・、2021、研究Bは〇〇〇：〇〇〇

最新の研究の紹介として、研究Aの結果と研究Bの結果のみを紹介するが、研究内容の紹介ではなく、下側に例示してあるような講師による主張が、スライドの主である場合 ⇒ 引用の範囲

最新の研究による知見に基づく



例)
研究Aと研究Bに共通するように〇〇を行うことが必要
研究Aならびに研究Bの結果を受けて、次のステップとして、〇〇が今後求められる。

便宜上、赤枠が
スライド全体
とする。

出典：研究Aは〇〇〇：〇〇〇・・・・・・、2021、研究Bは〇〇〇：〇〇〇